

## 荒瀬の山の大蛇～酒井明 説話集 19※～

いつな頃のことやら分からんが、荒瀬の山にゃあ大けな蛇が住んじよって、時たま出会うた人らあの中にゃあたまげてしもうて、寝込んだ人もあったという事をよう聞かされた。

特別どうのこうのと暴れたり、悪いことをしたりというこたあ聞かなんだが、出会う人はたまげるのがほんまじゃろう。

なんでもその蛇、宿毛の某という人が、可愛がって飼いよったちゅうこっちゃが、あんまりずんずん太るけん、なんともならん様になってしもうて、荒瀬の坊さんに相談して、もろうてもろたというこっちゃ。

ところが荒瀬の坊さんは

「蛇の方からいわひたら、人間から餌をもろうて飼われるがは、ほんくじゃあないというじゃろう。野山で暮らすもなあ、やっぱり野山で暮らすのがほんくのはずじゃあ」

そう言うて山い放ひてやったというこっちゃ。

それから後、荒瀬の山を住家にして、あっちこっちと餌あ探しまわるので、用事で山い入って出会う事もあろうのう。

そんげないわくは知らいでも、太い蛇に出会うたら

「ざまなのがおったけんのう」

と噂話が広がることになってくる。

そうはいうても、それがどんだけ太いもんじゃったか、確かなことはどうにも分からんが、かなり大きなもんがおるにゃあおったに間違いなからう。

山道でやれ一休みと思うて、松の丸太に腰かけたら、ずるずる動きだひてつたまげた話。岩場の前を通ったら生臭い匂いと、大けないびきが聞こえてきたら蛇の巣穴の前じゃった。

そんな話も聞かれるけん、ここの蛇でもかなり太うなるのも、おるにはおったがじゃろうけん、近頃とんとそんなニュースがこの辺には出てこんのう。

※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。

